心房細動における抗凝固療法　の実態調査（ASSAF-K）講演会　ご案内

神奈川県における心房細動における抗凝固療法の有効性安全性実態調査　ASSAF-K（A Study of Safety and efficacy of anticoagulant therapy in the treatment of Atrial Fibrillation in Kanagawa ）

２０１３．７．１０　１９：３０－

開催場所　神奈川県総合医療会館（県医師会）　２Ｆ　Ｂ会議室

地下鉄伊勢佐木長者町　JR 関内駅

総合司会　　羽鳥裕

座長　日医大武蔵小杉武蔵小杉病院循環器内科教授　佐藤直樹先生

一般講演１　ＡＳＳＡＦ－Ｋ　研究の意義　　講師　国島医院　国島友之先生

一般講演２　ＣＫＤと抗凝固アンケート調査　相模原　内科こばやしクリニック　小林一雄

特別講演　講師　横浜市大　循環器内科准教授　　石川利之先生

「心房細動に対する抗凝固療法」

ASSAF-K 登録方法（紙入力、WEB 入力、ランタイム入力）について　堺医院　　堺浩之先生

総合討議

車の手配はありません。飲食の用意もありません。　　（裏ページもご覧下さい）

２０１３．６．２１　１９：３０－２１：３０　川崎市医師会中原支所研究室　で準備会を行いました。レジメは準備中です。

ASSAF-K 研究の意義　高津区国島医院　国島友之先生

基調講演　日医大武蔵小杉病院　循環器教授　佐藤直樹先生　　心房細動抗凝固療法の実態- ATTEND registry より

ＣＫＤと抗凝固アンケート調査　相模原　内科こばやしクリニック　小林一雄

ASSAF-K 登録方法　紙入力、WEB 入力、ランタイム入力　中原区堺医院　堺浩之先生

総合討議

日本はかつてない高齢社会を迎え、それとともに心房細動の患者が増加しており、６０歳を超えると増え始め８０歳では１０％以上となります。　そして、治療方法も経過観察、洞調律に戻すための抗不整脈薬投与、頻脈をとるためのβ−遮断薬投与、抗血小板薬投与、抗凝固薬投与、カテーテルアブレーション等ありますが、その診療実態は明らかではありません。　２００８年に発表された「心房細動治療ガイドライン改訂版」では、弁膜症ではもちろんのこと、心不全、高血圧、高齢、糖尿病、脳梗塞などのリスクを抱える人は、非弁膜症性心房細動にもワルファリン抗凝固療法が推奨されましたが、薬剤投与によって脳出血などのリスクが上がることを恐れ、十分量の治療がなされないこともありました。ここ数年で、新抗凝固薬が多数販売されましたが、年齢、体重、腎機能（クレアチニン・クリアランス）によって投与量を決める必要があり、腎臓病学会の腎機能評価の指標の一つeGFRと異なるため煩わしく感じるかもしれません。　また薬価が１日５００円と高価なため、治療継続が難しいこともあります。これらの新凝固薬は、効果発現が早い一方、飲み忘れると数日で薬効が消えてしまいます。長期処方において患者に、どのように継続服薬させるかが悩みの種です。　心房細動治療の実態調査は、「東京女子医大心臓血管研究所調査（山下武志）」などがありますが、実地医家による調査はありませんので、ぜひ、同研究にご参加下いただきたいと思います。紙での入力郵送、WEB入力、ファイルメーカーランタイム版ＵＳＢ入力などに対応しています。　ただし、全くの自主研究ですので、協力費等はありませんが、会員の先生方のご協力をお願いします。日本循環器学会の後援、神奈川県内科医学会の後援をいただいておりますが、集計･統計処理は川崎市内科医会でおこないます。

ホームページもご覧下さい。　http://assaf-k.umin.jp

川崎市内科医会会長･神奈川県内科医学会副会長　　羽鳥裕　０４４－５２２－００３３

mailto:yutaka@hatori.or.jp